

中学校 英語

中学校英語科においてまとまりのある英語を聞き取り、
概要を理解する力を高める指導法の研究
ー推測する活動を通してー

義務教育課 研究員 石久保 美 喜

要 旨

英語科において、コミュニケーション能力の育成を図るためには、英語を聞いてその概要を理解し、判断・応答する力を付ける指導が必要である。話者から発せられる英語を理解することができなければ、内容を判断し応答することが難しいことから、コミュニケーション能力の基礎の一つを、情報として発せられる英語を聞いて概要を理解する力と捉えた。この力を付けるためには、推測して英語を聞く活動を、継続的・計画的に行うことが有効であることが示唆された。

キーワード：中学校 英語 まとまりのある英語 聞く力 推測 帯活動

I 主題設定の理由

1 新しい英語教育

文部科学省は「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～(2016.1.18)」改革2(1)現状と成果の中で、「現行の学習指導要領では、(中略)中学校・高等学校では、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の技能を総合的に高める指導を行うこととし、指導語数を増加[中学校は900語程度から1,200語程度、高等学校は1,300語程度から1,800語程度(中略)]するとともに、教材の題材を充実している。また、文法はコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法事項を言語活動と効果的に関連付けて指導することとなっている」と述べている。

文部科学省は、これからの社会のグローバル化に対応し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えて、新しい英語教育の本格展開を進めている。小学校中学年からの外国語活動、小学校高学年からの教科としての英語の導入に加え、中学校英語科では、授業は英語で行うことが基本となる。英語での授業が先行実施されていた高等学校の英語科では言語活動の高度化が示された。新しい英語教育においては、小学校・中学校・高等学校を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養うことが求められる。

このことから、今後ますます教室に英語があふれ、生徒が英語に触れる機会や量は増えることが予想される。また、英語での発信を支える理解力の向上のための指導が求められるのではないかと考えられる。

2 青森県学習状況調査

平成26年度の青森県学習状況調査の結果を見てみると本県の中学2年生の英語力が分かる。平成26年度学習状況調査実施報告書にある「学習状況の実態をより具体的に把握するために、教科ごと・問題ごとに示した、目標となる通過率」(以下、「設定通過率」とする)(青森県教育委員会、平成26年12月)を基準として、英語を「書く力」、「読む力」及び「聞く力」を見てみると、図1のような結果であった。本県と研究協力校のある青森市、それぞれの通過率と設定通過率を比べてみると、設定値が高いこ

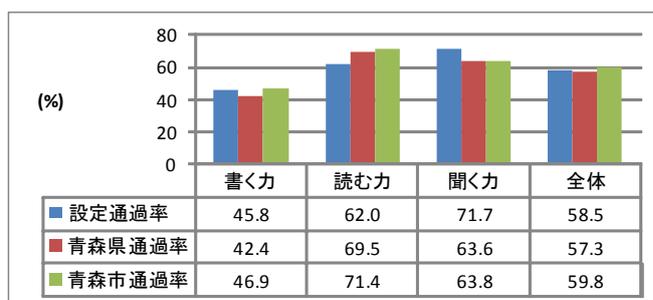


図1 平成26年度青森県学習状況調査 英語 領域別通過率 単位 (%)

ともあるが、「聞く力」について、数値が大きく下回っていることが分かる。平成26年度学習状況調査実施報告書では、通過率の低かった問題として、10問中3問が指摘されている(表1:赤字)。

Whose を用いた疑問文に正しく応答する問題では、Whose のあとの名詞が複数形であることを確認

させ、単数名詞・複数名詞を織り交ぜながら繰り返し活用することで理解を図ることができる。How long ～? に対して正しく答える問題では、これも活用の機会を増やす指導の工夫により、意味理解を促すことができると思われる。しかしながら、まとまりのある英文を聞いて概要を理解する問題に関しては、一部の単語や表現を聞き取ることができただけでは簡単には概要理解につながらず、また、単語力の乏しい生徒にとっては克服が困難であり、計画的・継続的な指導が必要になるのではないかと考えられる。

これらのことから、4領域のうちの「聞く力」に焦点を当て、その中でもまとまりのある英語を聞いて概要を理解する力を向上させたいと考え、本研究主題を設定した。

表1 平成26年度青森県学習状況調査 英語 「聞くこと」小問別通過率 単位(%)

問題の内容	設定通過率	青森県通過率	青森市通過率
How are you?に対して正しく応答する。	80.0	73.9	67.4
Whoseを用いた疑問文に正しく答える。	65.0	39.3	39.5
thank youに対して正しく応答する。	80.0	76.2	78.5
How long～?に対して正しく答える。	70.0	32.9	41.7
まぎらわしい数字の発音や月を聞き分ける。	75.0	77.2	74.8
人の居場所や行為を聞き分ける。	70.0	95.2	95.4
数字や教科、曜日聞き分ける。	75.0	65.2	65.3
数字と簡単な形容詞を聞き分ける。	70.0	73.4	72.7
まとまりのある英文を聞いて概要を理解する。	60.0	37.7	39.7

II 研究目標

中学校英語科において、まとまりのある英語を聞き、その概要を理解する力を高めるためには、推測する活動を計画的・継続的に実施することが有効であるということ、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

中学2年生の英語科において、タイトルからキーワードと概要を、キーワードからタイトルと概要を推測する活動を計画的・継続的に行い、英語を聞く前に推測することを意識させることが、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力を高めることに有効であるだろう。

IV 研究の実際とその考察

1 目指す生徒像

これから始まる新しい英語教育では、グローバル社会を生き抜く力となる、実践的なコミュニケーション能力が求められる。言語活動が活発になり、教室に英語があふれる。英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に指導し、表現の基礎となる知識を身に付け、理解する力を育んでいかなければならない。

筆者はコミュニケーションを、感情や情報のやりとりと捉えている。情報や感情を見たり、聞いたり、感じ取ったりして相手を理解する能力と、自分の感情や伝えたい情報を伝える能力の両方が備わって初めて、コミュニケーションは成り立つと考えられる。中でも、相手の話す英語を聞いて概要を理解する力に注目した。相手の伝えたい内容は、状況や表情である程度理解できる。これに、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力が備われば、相手の伝えたいことがより深く理解でき、表現力の素地となるのではないかと考えられるからである。青森県教育委員会が刊行した、青森県版中学校英単語集(2014.6)にある青森県版「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標(以下、「CAN-DOリスト」とする)と、青森県学習状況調査の過去の出題傾向から、本研究では、60語程度の内容に一貫性のある英語を聞いて概要を理解し、日本語で書かれた四つの選択肢から誤りを一つ指摘することができる生徒を目指すものとする。

2 まとまりのある英語

まとまりのある英語とは、本研究では60語程度からなる、内容に一貫性のある英文を指す。検証の対象が中学校2年生の生徒であることと、本県が作成している「CAN-DOリスト」、青森県学習状況調査の過去6年間の問題を分析した結果から導き出した語数である。「CAN-DOリスト」では、2学年終了時の「聞くこと」の学習到達目標が「話し手に聞き返したり確認したりしながら、初歩的な英語を聞いて、話し手の意向などを理解できる」となっており、この学習到達目標を達成するための三つの目標の中の一つに「内容的にまとまりのある70語程度の話を書いて、その概要や要点を理解できる」とある。また、青森県学習状況調査の聞き取り問題のうち、まとまりのある英文を聞いて概要を理解する力を確かめる問題の単語数を調べた結果（平成21年度から平成26年度）、問題の総単語数は47語、69語、60語、60語、63語、57語となっている。検証授業の時期が1学期であることも併せて、本研究で扱うまとまりのある英語を60語程度と定めた。

まとまりのある英語の内容は、一貫性があり、生徒の身近な話題であることと、前時の復習となるよう工夫した。内容とタイトルはネイティブスピーカーに点検してもらい、聞き取りのための音声教材もネイティブスピーカーに作成を依頼した。

本研究は、推測することで概要を理解する力を高めることをねらいとしているので、未習の単語や文法を1～2割程度教材に盛り込むよう工夫した。

3 推測する力

「聞く力」、特にまとまりのある英語を聞いて概要を理解させるための授業実践を振り返ると、十分であったとは言い難い。目標設定が漠然としていたこと、まとまりのある英語を聞き取る場の設定が不十分だったことや、単語や文法理解に苦しむ生徒への手立てが不足していたことが課題として挙げられる。

事前調査で「英語のリスニングをするとき、言葉以外でもっとも参考になるのは何ですか」という調査を行った結果、絵や表からの推測、また、テストの問題用紙にある選択肢からの推測等をしていることが分かった。当てはまるもの全てを選択するように指示したが、多くの生徒が1個ないし2個の項目を選んでいるに過ぎず、言葉以外を聞き取りの参考にする意識の低さがうかがえた。

また、「英語のリスニングで分からない単語が聞こえてきたらどうすることが多いですか」という問いに対して半数以上の生徒が「とりあえず最後まで聞き、だいたいの内容からその単語の意味を推測する」という項目を選んだ。この調査結果から、生徒は、新出の単語や意味のあいまいな単語にこだわり、どうにかしてその単語の意味を知ろうとすることが分かった。つまり、その後の内容の聞き取りに集中できていなかったり、その単語の意味を知るために英語を聞き取ろうとしたりするため、まとまりのある英語の概要理解にはつながっていないのではないかと分析した。

これら二つの事前調査の結果と、これから始まる新しい英語教育、青森県学習状況調査の結果から、生徒に推測する力を付けることが、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力の向上に効果があるのではないかと考えられる。まとまりのある英語を聞く際に、言葉以外に参考になる材料を増やすことと、新出であったり、意味があいまいであったりする単語や表現に出会ったときに、その単語や表現にこだわらず、一通り聞いて理解することのできた単語や表現から概要を推測することが理解につながるのではないかと考えられるためである。

そこで、2種類の推測する活動を実施することとした。一つは、これから聞こえてくるであろうまとまりのある英語のタイトルからキーワードを推測し、概要理解につなげるTOP-DOWN GUESS、もう一つは、5個のキーワードからタイトルを推測して概要理解につなげるBOTTOM-UP GUESSの2パターンである。聞こえてくるであろう単語や概要をあらかじめ推測することにより、受け身の聞き取りではなく、推測した単語や内容を探し当てながら、必要な情報のみをインプットしようとする積極的な聞き取りをし、概要の理解につなげようとする生徒の育成に役立つのではないかと仮説を立てた。

4 帯活動

松沢（2014）は帯活動を「学校英語教育独特のネーミング」とし、「継続的で短時間行う」と定義している。また、これまでの帯活動は、「英語への興味をかき立てる、英語を学ぶ喜びを味わう、英語学習への意欲を増す、英語学習でのつまずきを取り除く、言語材料を定着させる、有能感を与える、Warm-up やReviewの代わりとする、を目的としていた」が、松沢は、「中学校英語教育では他の目的でも行われる」と述べている。それは、「生徒が苦手としていることを克服させるために行う帯活動」と、「教師

が生徒に特に伸ばしたい技能に取り組ませる」帯活動であるとしている。

これから始まる新しい英語教育と、青森県学習状況調査、研究協力校の生徒の実態から、推測してまとまりのある英語を聞く活動を帯活動として取り入れることで、特に伸ばしたい技能（まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力）に取り組ませる時間の確保ができると考えられる。

これらのことから、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力を向上させるために、推測する活動を授業の帯活動に設定してその効果を確かめることとした。

5 事前調査・事後調査の調査項目

生徒の実態を把握するために、事前調査・事後調査を実施した。調査項目は、リスニングへの意欲について研究した菊地（2005）が実施した調査項目を参考にして作成したもの（表2）と、青森県学習状況調査の質問紙調査内容を参考にして、理解の程度を問うもの（表3）を準備した。青森県学習状況調査の質問紙調査法を参考にし「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「分からない」、理解の程度を測る項目では「よく分かる」「だいたい分かる」「分かることと分からないことが半分ずつある」「ほとんど分からない」の5件法で回答させた。

また、生徒の「聞く力」を確かめるために、平成26年度の青森県学習状況調査の聞き取り問題のみを抜粋して解かせ、検証の参考にした（図2）。

表2 英語に対する意識を測る項目

調査項目（意識）
(1) 英語の勉強が好きだ。
(2) 英語の勉強は大切だ。
(3) 英語を「聞くこと」が好きだ。
(4) 英語を「聞くこと」が得意だ。
(5) 授業中に先生や友達の話す英語を聞くのは楽しい。
(6) 授業でリスニングの練習をするのはおもしろい。
(7) 英語のリスニングは楽しい。
(8) ALTの先生の話す英語を聞くのは楽しい。
(9) 英語のリスニングの時、何が話されるか楽しみだ。
(10) 英語を聞いて内容が理解できると楽しい（嬉しい）。

表3 理解の程度を測る項目

調査項目（理解の程度）
(1) 英語の授業がどの程度分かりますか。
(2) 先生の話す英語がどの程度分かりますか。
(3) 友達の話す英語がどの程度分かりますか。
(4) ALTの話す英語がどの程度分かりますか。
(5) 調査問題の英語はどの程度分かりましたか。

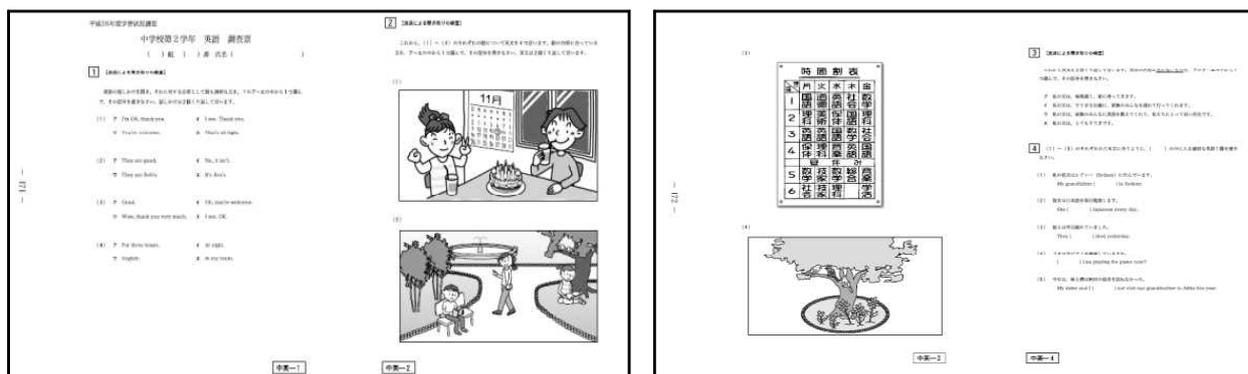


図2 英語を聞く力を測る調査問題（平26年度 青森県学習状況調査問題より抜粋）

事前・事後調査でこれらの調査項目と問題を使用し、生徒の変容を見た。正答を暗記することで事後調査結果に影響が出ないように、事前調査では答え合わせをしないこととした。まとまりのある英語を聞いて選択肢から誤りを指摘する問題では、偶然性の確率を低くするために、根拠を記入するよう指示した。

6 研究協力学級の生徒の実態

研究協力学級は36人学級で、平成27年4月に実施したNRTの結果から、4領域の正答率を全国の正答率

と比べてみると、すべての領域で全国の正答率を上回っているが、その差は僅差である。本研究で焦点を当てている「聞くこと」に関しては全国の正答率をわずか0.3ポイント上回っているに過ぎず、他の領域に比べても正答率は低い。事前調査で実施した、平成26年度の青森県学習状況調査の聞き取り問題の正答率は表4の通りで、設定通過率を研究対象35人（事後調査時、1人欠席のため）で算出した、期待される通過人数を超えたのは、9問中わずか3問であった（表4・5：青字）。

表4 事前調査結果（平成26年度 青森県学習状況調査問題より抜粋） 単位（％）

問題の内容	設定通過率	青森県通過率	青森市通過率	事前調査正答率
1-(1) How are you?に対して正しく応答する。	80.0	73.9	67.4	65.7
1-(2) Whoseを用いた疑問文に正しく答える。	65.0	39.3	39.5	25.7
1-(3) thank youに対して正しく応答する。	80.0	76.2	78.5	85.7
1-(4) How long～?に対して正しく答える。	70.0	32.9	41.7	22.9
2-(1) まぎらわしい数字の発音や月を聞き分ける。	75.0	77.2	74.8	85.7
2-(2) 人の居場所や行為を聞き分ける。	70.0	95.2	95.4	97.1
2-(3) 数字や教科、曜日を聞き分ける。	75.0	65.2	65.3	68.6
2-(4) 数字と簡単な形容詞を聞き分ける。	70.0	73.4	72.7	54.3
3 まとまりのある英文を聞いて概要を理解する。	60.0	37.7	39.7	25.7

表5 設定通過率を設定通過人数（35人学級）で算出した人数 単位（人）

問題番号	1-(1)	1-(2)	1-(3)	1-(4)	2-(1)	2-(2)	2-(3)	2-(4)	3
35人学級で期待される通過人数	28	23	28	25	26	25	26	25	21
研究対象クラスの正解者数	23	9	30	8	30	34	24	19	9

研究主題にある、まとまりのある英語の聞き取り問題では、期待される正解者数21人に対して、9人のみの正解であった（表4・5：赤字）。事後調査の結果から、正解者数9人のうち6人は偶然記号が当たっていた可能性が高く、概要を理解して正解したのは実質3人だったことが分かる。

表6 事前調査結果（英語に対する意識調査） 単位（人）

調査項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
(1) 英語の勉強が好きだ。	6	9	12	6	2
(2) 英語の勉強は大切だ。	16	14	2	3	0
(3) 英語を「聞くこと」が好きだ。	6	9	12	6	2
(4) 英語を「聞くこと」が得意だ。	1	6	15	10	3
(5) 授業中に先生や友達の話す英語を聞くのは楽しい。	4	13	10	7	1
(6) 授業でリスニングの練習をするのはおもしろい。	3	9	16	6	1
(7) 英語のリスニングは楽しい。	6	9	10	9	1
(8) ALTの先生の話す英語を聞くのは楽しい。	4	13	10	7	1
(9) 英語のリスニングの時、何が話されるか楽しみだ。	4	7	14	9	1
(10) 英語を聞いて内容が理解できると楽しい（嬉しい）。	18	11	2	4	0

また、表6にある意識調査の結果から、「英語の勉強は大切だ」という認識はあるものの、「英語の勉強が好きだ」、「英語を『聞くこと』が好きだ」という項目では、肯定的な意見は半数以下であることが分かる。英語を学ぶ必要性は感じているものの、前向きになることのできない生徒が多くいる。また、英語を聞くことに関しても、得意、好き、楽しい、と答えた生徒は少ない。しかしながら、「英語を聞いて内容が分かると楽しい(嬉しい)」と答えた生徒が多く、「分かる」「できる」時間や場面を増やすことが、前向きに英語の学習、英語を聞く活動に取り組むことにつながるのではないかと考えられる。

表7の結果からは、英語の理解に対する自信のなさが分かる。ほとんどの項目で、「よく分かる」「だいたい分かる」と解答した生徒は、半数以下であった。英語を理解する面白さを経験している生徒は多いが、その経験回数の少なさから、英語の理解に対しては自信をもてていないと考えられる。

表7 事前調査結果(理解の程度を測る項目) 単位(人)

調査項目	よく分かる	だいたい分かる	分かるところと分からないところが半ずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
(1) 英語の授業がどの程度分かりますか。	3	11	13	5	3
(2) 先生の話す英語がどの程度分かりますか。	2	11	14	6	2
(3) 友達の話す英語がどの程度分かりますか。	5	18	7	3	2
(4) ALTの話す英語がどの程度分かりますか。	1	8	9	12	5
(5) 調査問題の英語がどの程度分かりましたか。	1	14	13	5	2

7 検証授業

検証期間は、平成27年6月1日から7月3日までの約1か月間で、研究協力校の中学2年生35人を研究対象とした。

まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力を高めるために、2種類の推測する活動を帯活動で取り入れた。第一段階ではタイトルからキーワード、キーワードから概要を推測する活動を実施した。これをTOP-DOWN GUESSとした。実際の帯活動で使用したワークシートが図3である。これを点線で山折りし、右半分が見えない状態で推測する活動を開始した。黒板にキーワードを提示した後にワークシートを配付し、まずは個人でキーワードを推測する。個人での推測の後、推測したキーワードを全体で共有する。その後日本語で概要も推測する。このとき、文章で記述することのみを指示し、何語以上、何文以上という指定はしなかった。それぞれの生徒が、今ある語彙力で推測し、今ある背景知識を活用しながら英語を聞き取り、概要の理解につなげさせたいと考えたためである。右半分は折ったままで、まとまりのある英語を2回聞かせた。生徒は、推測して記入したワークシートを見ながらまとまりのある英語を聞く。このとき、推測してあらかじめ記入しておいたキーワードや概要に丸印を付けたり線で結んだり、新たに聞き取ることができた表現をメモしたりしていた。2回の聞き取りの後に山折りしていた右半分を見える状態にして、四つの選択肢から誤りを指摘させた。この方法で概要を理解しているかどうかを確かめた。これは、青森県学習状況調査問題と同じ方法である。偶然記号が当たる確率を低くするため、誤りを指摘した根拠もワークシートに記入するよう指示した。このTOP-DOWN GUESSは、4回実施した。

第二段階として実施したのが、5個のキーワードからタイトル、そのタイトルから思い付くキーワードと概要を推測するBOTTOM-UP GUESSである(ワークシート:図4)。TOP-DOWN GUESSと同じように右半分が見えない状態で推測する活動をし、まとまりのある英語を2回聞き取った後に選択肢から誤りを指摘させた。このBOTTOM-UP GUESSは3回実施した。

最終段階として、青森県学習状況調査と同様の形式で、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力を試す問題を解かせた。あらかじめ選択肢が見える状況でまとまりのある英語を2回聞かせ、誤りを指摘させた。この活動は3回実施した。

帯活動で使用した教材は、自主作成した。「IV2 まとまりのある英語」にあるように、まとまりのある英語を、60語程度の内容に一貫性のあるものになるよう注意し、誤りを指摘させるための選択肢も自主作成した。先にも述べたが、あくまでも推測することを目的とするので、未習の単語や文法を全体の1～

2割程度取り入れて教材を作成した。また、成功体験を多く積ませ、自己有能感を与えることができるよう、推測しやすいタイトルやキーワードを取り入れた。

約1か月の検証授業中、10回にわたって帯活動を実施した結果を次に示す。

図3 TOP-DOWN GUESSワークシート

図4 BOTTOM-UP GUESSワークシート

8 調査結果

事前・事後調査の結果を比較してみると、生徒の英語に対する意識や理解の程度に変化が表れたのが分かる。まず、英語に対する意識（表8）では、英語を聞くことに対して肯定的な意識をもつ生徒が増えたことが分かる。「(2) 英語の勉強は大切だ」という項目では、もともと肯定的な意見が多かったこともあり数値に変化はないが、その他の項目では肯定的な意見が増えた。

表8 事前・事後調査結果（英語に対する意識調査） 単位（人）

調査項目	そう思う		どちらかといえば そう思う		どちらかといえば そう思わない		そう思わない		分からない	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(1) 英語の勉強が好きだ。	6	10	9	13	12	10	6	3	2	0
(2) 英語の勉強は大切だ。	16	18	14	12	2	2	3	3	0	0
(3) 英語を「聞くこと」が好きだ。	6	12	9	9	12	12	6	7	2	1
(4) 英語を「聞くこと」が得意だ。	1	2	6	13	15	12	10	7	3	1
(5) 授業中に先生や友達の話す英語を聞くのは楽しい。	4	12	13	8	10	10	7	5	1	0
(6) 授業でリスニングの練習をするのはおもしろい。	3	12	9	8	16	10	6	5	1	0
(7) 英語のリスニングは楽しい。	6	8	9	10	10	11	9	5	1	1
(8) ALTの先生の話す英語を聞くのは楽しい。	4	21	13	10	10	4	7	0	1	0
(9) 英語のリスニングの時、何が話されるか楽しみだ。	4	8	7	12	14	10	9	4	1	1
(10) 英語を聞いて内容が理解できると楽しい(嬉しい)。	18	22	11	10	2	2	4	0	0	1

表9の、理解の程度を測る項目について見ても、すべての項目で「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた生徒の人数が増えた。生徒が、英語に対して自信をもったことが分かる。特に、「(5) 調査問題の英語がどの程度分かりましたか」という問いに対しては、半数以上の生徒が自分の解答に自信をもって

いることが分かる。これは、英語の聞き取りに対しての態度が積極的になった生徒が増えたことを表しているものと捉えた。

表9 事前・事後調査結果（理解の程度を測る項目） 単位（人）

調査項目	よく分かる		だいたい分かる		分かるところと分からないところが半分ずつある		分からないことが多い		ほとんど分からない	
	事前調査	事後調査	事前調査	事後調査	事前調査	事後調査	事前調査	事後調査	事前調査	事後調査
(1) 英語の授業がどの程度分かりますか。	3	6	11	14	13	7	5	6	3	2
(2) 先生の話す英語がどの程度分かりますか。	2	6	11	11	14	8	6	9	2	1
(3) 友達の話す英語がどの程度分かりますか。	5	11	18	13	7	7	3	3	2	1
(4) ALTの話す英語がどの程度分かりますか。	1	8	8	13	9	9	12	4	5	1
(5) 調査問題の英語がどの程度分かりましたか。	1	6	14	19	13	6	5	4	2	0

表10 事前・事後調査結果（平成26年度 青森県学習状況調査問題より抜粋） 単位（%）

調査項目	設定 通過率	青森県 通過率	青森市 通過率	事前調査 正答率	事後調査 正答率
How are you?に対して正しく応答する。	80.0	73.9	67.4	65.7	94.3
Whoseを用いた疑問文に正しく答える。	65.0	39.3	39.5	25.7	40.0
thank youに対して正しく応答する。	80.0	76.2	78.5	85.7	94.3
How long～?に対して正しく答える。	70.0	32.9	41.7	22.9	42.9
まぎらわしい数字の発音や月を聞き分ける。	75.0	77.2	74.8	85.7	80.0
人の居場所や行為を聞き分ける。	70.0	95.2	95.4	97.1	100.0
数字や教科、曜日聞き分ける。	75.0	65.2	65.3	68.6	71.4
数字と簡単な形容詞を聞き分ける。	70.0	73.4	72.7	54.3	97.1
まとまりのある英文を聞いて概要を理解する。	60.0	37.7	39.7	25.7	31.4

平成26年度の青森県学習状況調査問題を解かせた結果、これも、ほとんどの問題において正答率は上がった（表10）。青森県の設定通過率を越えたものもある。しかしながら、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する問題では、正答率は上昇したものの、その上昇率は微々たるものであった。

これらの調査結果から、本研究の成果と課題について、次に詳しくまとめる。

V 研究のまとめ

1 研究成果

まず、生徒の意識の変化についてである。リスニングをするときに、絵や表、ジェスチャー等の言葉以外を参考にする生徒だけでなく、タイトルから内容を推測しようとする生徒数が増加した。タイトルからキーワード、キーワードからタイトルを推測させる活動を継続的に行い、生徒がその推測を基にまとまりのある英語を聞いて内容を理解できたという成功体験を積み重ねたことで、タイトルを活用した推測が聞き取りに有効である、と感じた生徒が多くいたことが分かる。また、「分からない単語が聞こえてきたときに、気になって集中できなくなる」、と答えた生徒は、3人から0人になった。これは新出単語や意味のあいまいな単語に惑わされることなく、推測し、聞いて理解できた単語や表現と合わせて背景知識をもち、今ある語彙力で概要を理解しようとする積極的な姿勢の表れと考えられる。

また、英語を聞くことに対する意識が肯定的に変化したことや、英語を聞いて「分かる」と感じた生徒が増加したことから、英語に対して自信をもつことのできた生徒が増えたことが分かる。

聞き取り問題の正答率の上昇から、本研究が英語の聞き取りに効果があることが分かった。これは、生徒のメモの様子からも分かる。ただ絵や選択肢を参考にするだけでなく、そこから推測される、聞こえてくるであろう単語や表現をメモする生徒が多く見られた。

表8, 9, 10からも分かるように、本研究は、英語の聞き取りに対する肯定的な意識の向上、英語の理解に対して自信をもつ生徒の増加、そして、英語を聞き取って内容を理解する力の向上に有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

一定の成果を得た本研究であるが、課題も残った。「英語の勉強は大切だ」と感じている生徒は30人いるのにも関わらず、「英語の勉強が好きだ」、「英語を『聞くこと』が好きだ」、と答えた生徒は半数に止まった。これは、推測するにあたり、もともとの語彙力・文法力が低いために、まとまりのある英語を聞く前の背景知識の少なさによるものだと考えられる。また、表8より、聞き取り問題全体を見ると成果があるように見えるが、研究の中心部分である、まとまりのある英語を聞いて概要を理解する力の向上には課題が残っているのが分かる。背景知識を支える語彙量の少なさに加え、推測するスピードの向上や、背景知識をつなぎ合わせて概要を推測する力の育成が今後の課題である。

<引用文献・URL >

- 1 文部科学省 2014 「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm
(2016.1.18)
- 2 青森県教育委員会 2014 『平成26年度学習状況調査実施報告書』
- 3 松沢伸二 2014 「帯活動－その正体と魅力」『TEACHING ENGLISH NOW VOL. 27 SPRING 2014』
http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/pdf/ten027/TEN27_02.pdf (2016.1.22)
- 4 青森県教育委員会 2014 「平成26年度学習状況調査 第2学年 英語 調査票」
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/261222-619.pdf> (2016.1.22)

<参考文献・URL>

- 太田洋 2008 『英語を教える50のポイント』 光村図書
- 太田洋・日基滋之 2006 『新しい語彙指導のカタチ 学習者コーパスを活用して』 明治図書
- 青森県教育委員会 2014 『平成26年度学習状況調査実施報告書』
- 青森県教育委員会 2014 『青森県版中学校英単語集』
- 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 外国語編』
- 菊地和彦 2005 「英語リスニング意欲を高める英語リスニング指導の工夫」『福島県教育センター所報 ふくしま「窓」 No.149』
<http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/60000.shohou/00149/index.htm> (2016.1.22)
- 松本崇弘 2013 「概要や要点をとらえて聞く力を高める高等学校外国語科学習指導の工夫」 広島県立教育センター
http://www.hiroshima-c.ed.jp/center/wp-content/uploads/kenkyu/choken/h25_zennki/zen14.pdf
(2016.1.22)
- 見上晃 2004 「授業におけるリスニング指導」『TEACHING ENGLISH NOW VOL. 27 SPRING 2004』
http://tb.sanseido.co.jp/english/newcrown/t-e-n_bc/006.html (2016.1.22)
- 森山善美 2007 「リスニングの指導手順－その変換－」『島根大学教育学部紀要(教育学部)第41巻』
<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/bull/bull.pl?id=6505> (2016.1.22)
- 文部科学省 2013 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/fieldfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf
(2016.1.22)